



關卷驚奇俠客傳  
 編初  
 三

~ 13  
 3156  
 2



3156

萬延元歲四月吉祥日

橋源

萬延元歲

文久二戌年八月

四拜吉祥

文久戊午二奉八月

大化祖年二月日

橋源

開卷驚奇俠客傳第壹集卷之三

新儀

東都 曲亭主人編次



第五回 林住の謁しと南將舊縁と感念  
便宜と演々老尼村酒と薦む

却説新田貞方主六畑六郎二時種と従へる千葉の城下程遠く及福草村と  
過る多き。これ外這街盡頭小舊る草の庵あり。左右樹樹の折環りて柴  
門小牌を掲て今日休トと考たり。多き賣下とて口を翻し傳説を興け  
の時、このこのののの。黒は赤と三隻の雄鶏の姿をとせ。一頁の  
争ひに堪むるありん項毛と怒起距と揚る。閑坐平响許一箇是怒る  
谷を落さん。序勢あり。二箇の亦暴る。黄熊の樹と扱ん。不異。一  
虚々実々紛々として散る。相の御室の山の秋風。楓葉を龍。流去像。靈々と

大正書局



風をれ。這見盛のふと。何処なるる。主共侶。這方へ入る。由す。休ひひ。
 然主後の介。介介。引れ。裡面へ入る程。負方主。堂脱捨。
 屋を縁類。兄を撰る。庵主の女僧。其首。日景の近。
 とも草鞋を釋。や。伴もの。不ら。這首。背門より吹。
 喃々と真実。管待親切。推辞。
 存一草鞋を解。負方主。正屋。筆戸の頭。坐。口。女僧。連。
 薦めて上座。推。却。迹。時種。處。七。爐。火。燈。起。鐘。子。
 試。沃。茶。碗。の。破。焼。と。共。舊。る。二。荒。金。無。せ。温。茶。と。吸。
 休。不。態。主。後。の。飲。演。々。
 父。子。刀。禰。們。何。国。何。処。
 と。向。て。自。方。の。氣。否。千。葉。殿。の。城。内。由。縁。と。

二人で遊歴。真間の古蹟。且宿願。鹿嶋香取の両社。
 との。旅。其。基。主。の。賣。ト。生。活。
 門の柱。掛。某。の。旅。客。の。言。凶。
 望の成就。又成就。願。
 僧の眉根。額。
 る。周易。
 急。
 懈。日。
 遂。頭。髪。を。剃。捨。
 より。田。舎。の。の。身。
 音。の。示。現。



餅と供物もあつり常々香盤より饗饗と立升る香の煙の補陀落山の雲ちと疑はら  
 鳴る木魚の音の蕭然とと祇陀林の降はく雨も似え入し登時妙算の  
 菩薩を祈念し御前を置る銭六文を取下し擲つ小既す七頭れるその銭は  
 吉凶を知らずやわのけん徳ま三三六とて銭を菩薩の返すまを自方主とて  
 占兆のあらうも吉大吉也信る且その緯の欽び御佛まうしまうて介後詳に  
 らん且く等せぬとあるるさる恭しく一弓の経を繙く普門品を讀うけは自方  
 主のそつた妙算の後邊不在とる佛壇を本尊の左右の建る位牌  
 家中小金龍寺殿贈正三位黄門真山良悟大禅定門建武四年丁丑秋国七月二日  
 記すの義貞卿を祀れると左の方の春宮亮義顯朝臣左兵衛督義貞朝臣及  
 自方主の先考をとりまき左少将義宗朝臣の位牌ありけり又右の方の刑部  
 卿義助卿の子右衛門佐義治朝臣及近衛備后君あて亡びぬ右少将義隆

朝臣の位牌を措れる但是のまのまを額田鳥山江田桃井大館堀口に至る  
 まは新田の氏族の先靈を祀らぬもささめく心小訝と紙門の外画ありける  
 時種とてを竊は指さし示しぬの時種も亦れを駭然と又訝と御宗柴門に  
 頭を赤黒二隻の鶏の大に開ひし時那菴主の尼法師がとちあつるよと  
 方子由縁あるものらん問まほしきとあふの便りなれば靴を隔て癖を極る心地  
 とも義隆黙とて既して妙算の経讀果る巻收め誘とる自方主とてが  
 立て故の席の還れ時種も快退る復縁類の信りる當下妙算の笑は自方  
 主のち對して今も書記なりぬ占兆の大吉と君の南方火徳を九紫の陽数ありと  
 へども一白の水小封せられて久く本意を遂めたる然れ當国小來をせしは優る  
 資助とて宿望成就ある因く執考へるの君の實をみるを自方主も  
 武士あつて疑ひもる貴相あり信れば必南朝多る名將連をみる他人に

かくちれ。賤尼の諱をせむひる。出示のあて。幸ひあらん願ふ。名を告ぐせめり。向は。賤尼の  
 負方主の。後方。と。齊一。驚く。時種。高。照。と。忙。然。と。心。難。を。あ。い。と。姓  
 算の。ゆ。も。と。ち。領。た。声。と。低。め。て。疑。ひ。の。理。り。然。ら。ば。且。賤。尼。が。素。生。と。報。せ。つ。え。ん。  
 鳥。許。の。ま。く。も。少。せ。ぬ。と。の。ひ。つ。四。下。と。入。り。て。賤。尼。が。大。父。の。鷹。鳥。秤。權。平。當。仲。と。喚。れ。ば。  
 千。葉。家。譜。第。の。老。黨。也。主。君。宗。胤。と。共。侶。の。三。井。寺。合。戦。の。時。戦。歿。せ。り。と。  
 家の。口。碑。の。傳。へ。り。又。賤。尼。が。父。也。と。傳。へ。る。權。九。郎。直。仲。の。宗。胤。の。兄。子。と。胤。貞。主。は。仕  
 ま。り。と。年。來。肥。前。州。に。在。り。嗣。子。と。も。ま。り。と。朋。輩。の。二。男。を。け。り。權。七。實。仲。と。親。之。  
 俺。身。と。妻。せ。り。の。後。主。君。胤。貞。と。も。俺。二。親。也。世。と。逝。り。折。々。南。北。西。朝。の。御  
 合。體。の。よ。り。と。宮。方。を。城。に。送。り。攻。落。さ。れ。然。し。も。累。世。鎮。西。を。勇。將。の。時。高。く。一。菊。池  
 殿。と。足。利。家。兎。之。脱。兎。と。伏。せ。て。降。参。せ。り。時。宜。れ。ば。主。君。の。迹。の。享。け。り。も。り。肥。前。の  
 領。地。と。削。ら。れ。て。家。臣。も。離。散。し。と。れ。ば。賤。尼。が。亡。夫。實。仲。の。父。祖。の。故。郷。で。侍。り。と。遠。下

総。て。千。井。寺。の。遠。く。と。戦。程。の。も。く。世。と。逝。り。あ。つ。た。一。個。の。男。兒。あ。り。し。と。傳。へ。り。と。是。れ。と。と  
 志。脾。疇。で。亡。る。ゆ。り。と。細。衣。の。貌。と。變。て。這。首。の。命。と。締。び。し。り。の。御。小。の。時。め。あ。か。し。と。  
 多。く。大。父。當。仲。の。陪。臣。も。名。た。は。猛。者。を。宮。根。竹。下。の。戦。ひ。の。義。自。身。も。り。と。感。状。を  
 賜。り。し。り。の。命。後。三。井。寺。の。戦。歿。せ。り。折。總。大。將。義。貞。卿。を。一。の。惜。ま。を。あ。い。て。その。子。直。仲。と。名。を  
 上。せ。て。の。厚。に。仰。め。り。主。君。宗。胤。の。亡。骸。と。共。侶。の。葬。れ。を。厚。く。重。ん。じ。せ。り。と。傳。へ。り。と。御。恩。を  
 二。親。の。時。々。の。あ。い。で。俺。們。が。世。と。逝。り。も。那。御。并。新。田。殿。の。御。一。族。の。あ。い。喜。提。の。宗。胤。と。も  
 異。る。と。も。り。と。吊。ひ。な。れ。と。の。れ。り。と。傳。へ。り。と。大。茶。を。締。び。し。り。初。め。亡。君。宗。胤。胤。貞。と。も。の  
 死。の。節。の。後。世。の。ゆ。り。と。大。約。新。田。の。御。一。族。の。あ。い。位。牌。本。尊。の。左。右。に。侍。り。と。傳。へ。り。と。其。の  
 田。向。を。解。き。と。年。來。ま。り。と。傳。へ。り。と。任。而。賤。尼。の。錢。の。被。此。の。時。と。傳。へ。り。と。今。の。日。に  
 兼。胤。の。命。傳。へ。り。と。告。せ。り。と。傳。へ。り。と。の。あ。り。と。賤。尼。の。素。生。と。知。り。召。れ。ば。健。父。祖。の。肥。前。の。同  
 家。の。仕。下。の。と。い。へ。り。と。召。し。り。と。傳。へ。り。と。西。國。の。緯。の。趣。口。碑。の。傳。へ。り。と。傳。へ。り。と。







史記傳第一冊卷之二

所有後第七



時とてはひそきなるものありん  
 時種醉弄巨石  
 魚のさぬとあちあちをせ

負方

妙算

史記傳第一冊卷之二

卷之三

種是多。御前菴主のこれごと。南北兩朝神合體の後足利義満明宗叛てその御  
 ひ小乗一なる変詐素より限りて。新田楠の餘類なき。根を断葉を枯さんとせり  
 るこの朽ぞく神も怒り人の怨むとぞ御和睦の今も。主客の勢は同く。自らは  
 軍威海振る。量裏の奥の孤城と落され。越路も上野も。潜びて。主従又投て  
 往方も定めぬ。旅より旅へ赴く。折を當国の守兼胤主が鎌倉に管領と竊り怨  
 るより。あつて。緯信々。と世の風声。と信濃路。と傳ふ。然ると。虚実の料り。四つ千  
 葉の城下。小近つて。且その虚実と探る。く。その支果と実る。く。俺君大義の資助  
 先。便點もあつんと。主従。其外。計議。と旋ら。と。這地。又伴。と。ける。豈か。の。給  
 縁。の。尼公の。答。小立。と。這。吉。左右。と。少。ん。と。の。い。や。う。の。差。が。方。便。と。千。葉。末。殿。へ  
 汲。引。と。做。て。給。て。ん。や。と。耳。に。諸。事。當。坐。の。答。の。如。算。の。い。も。と。う。ち。領。事。廣。海。遊。て  
 却。主。従。小。對。ひ。て。い。ま。う。鈍。は。賤。尼。が。錢。下。も。原。是。佛。の。授。与。され。時。の。ま。の。奇。特。の。り。

然るもよる南朝の残將違を。と。猜。せ。上。の。違。を。と。詩。の。あ。女。合。と。未。り  
 る。嬉。し。の。俺。身。老。女。の。あ。る。れ。大。事。の。預。も。も。あ。ら。ね。と。幸。の。く。千。葉。殿。の。願。と。年  
 來。被。り。ゆ。れ。見。参。の。と。易。く。折。と。揣。と。え。え。と。竊。の。傳。へ。ま。と。ま。一。更。做。る。と。い。ひ。し  
 親。の。の。れ。美。の。始。め。の。然。も。あ。れ。忠。孝。の。本。意。小。解。か。く。任。意。を。の。飲。し。て。あ。ら。ぬ。の。且  
 く。あ。の。還。道。を。され。吉。左。右。と。候。せ。ぬ。呼。愛。た。や。と。祝。言。を。し。て。又。他。事。も。あ。く。を。え。ん。と。貞  
 方。か。う。な。く。領。事。の。ひ。て。ま。う。ん。あ。ら。ね。る。疑。か。と。あ。ら。ぬ。も。言。一。ト。口。の。出。て。駟。の  
 狂。が。う。と。あ。の。よ。り。時。種。の。先。を。せ。れ。て。と。恥。う。親。意。を。任。し。と。那。一。談。の。成。不。さ。す  
 く。ま。の。厄。會。の。を。あ。る。べ。れ。今。よ。う。と。憑。り。ゆ。の。の。う。心。あ。め。る。の。御。前。這。門。邊。を。赤。黒。二  
 隻。の。鶏。の。大。く。聞。ひ。し。う。時。赤。た。い。眉。と。逃。亡。の。折。を。菴。主。の。の。れ。と。を。洩。す。く。て。の  
 意。を。ゆ。る。那。赤。鶏。と。南。方。の。殘。將。餘。類。の。聲。言。られ。然。も。あ。ら。ぬ。の。を。傷。め。た。り  
 血。の。塗。れ。脆。く。も。肩。て。逃。亡。せ。し。愉快。ら。ぬ。と。今。ゆ。と。受。け。件。の。一。談。の。約。整。を。俺。身。の

仇の多きは祥ありと云ふ。と潜りて又同の妙算頭より棒をひきし。祥ありと云ふ。足利方の壁を破る。那黒鶏の猛り。一旦勝れ無きと云ふ。此所を傷らるるを知らず。逃去敵を趕て。柴門の内馳入程。那樹の幹突中。中を忽地息絶。疑ひなく死する。他脚躰せよと指す。負方主も時種も訝り。目を定めて遙か庭を樹間を果して件の黒鶏。何の程ある敵死して。當下妙算又の棒を。那鶏共の近邊の村人の養鶏の。一甲夜長せし。意嫌ひて送る。這首へと云ふ。理なく賤尼。預けはる。出家の西女。多き物。暁を知らず。便りし。折々。餌と云ふ。そのまれば。あられ既の勝る黒鶏の死せし。是も自方の吉兆。何の不祥。うば。銭下。その那鶏の勝負も。如く。あられ。時。ま。れ。り。と。い。ふ。ま。の。願。ひ。疑。念。を。祛。け。ぬ。意。見。う。さ。せ。の。か。皆。死。為。の。ゆ。え。と。婦。人。の。似。げ。な。辯。論。の。主。從。齊。一。感。嘆。し。つ。つ。趣。亦。是。理。あ。り。現。在。窮。寇。の。趕。へ。る。那。黒。鶏。の。勝。れ。無。き。不。覚。の。よ。り。敗。を。取。ま。り。人。の。奇。伏。も。亦。

仇の多きは祥ありと云ふ。と潜りて又同の妙算頭より棒をひきし。祥ありと云ふ。足利方の壁を破る。那黒鶏の猛り。一旦勝れ無きと云ふ。此所を傷らるるを知らず。逃去敵を趕て。柴門の内馳入程。那樹の幹突中。中を忽地息絶。疑ひなく死する。他脚躰せよと指す。負方主も時種も訝り。目を定めて遙か庭を樹間を果して件の黒鶏。何の程ある敵死して。當下妙算又の棒を。那鶏共の近邊の村人の養鶏の。一甲夜長せし。意嫌ひて送る。這首へと云ふ。理なく賤尼。預けはる。出家の西女。多き物。暁を知らず。便りし。折々。餌と云ふ。そのまれば。あられ既の勝る黒鶏の死せし。是も自方の吉兆。何の不祥。うば。銭下。その那鶏の勝負も。如く。あられ。時。ま。れ。り。と。い。ふ。ま。の。願。ひ。疑。念。を。祛。け。ぬ。意。見。う。さ。せ。の。か。皆。死。為。の。ゆ。え。と。婦。人。の。似。げ。な。辯。論。の。主。從。齊。一。感。嘆。し。つ。つ。趣。亦。是。理。あ。り。現。在。窮。寇。の。趕。へ。る。那。黒。鶏。の。勝。れ。無。き。不。覚。の。よ。り。敗。を。取。ま。り。人。の。奇。伏。も。亦。下。哺。あ。る。の。妙。算。日。影。を。瞻。仰。て。噫。体。を。さ。鈍。れ。や。日。の。大。く。傾。た。る。物。欲。あ。ら。う。と。ま。ま。ゆ。例。の。豆。腐。の。ま。ま。と。云。ふ。那。舛。沽。奴。も。何。と。云。ふ。道。心。若。し。得。意。を。と。見。敗。し。と。疎。き。な。飲。快。来。よ。う。と。吟。詠。既。に。あ。ら。う。と。云。ふ。豆。腐。を。と。呼。声。を。え。く。漸。々。近。く。と。来。ぬ。れ。妙。算。の。遠。く。盆。を。引。提。て。此。方。に。走。り。出。る。と。抗。あ。ら。う。と。招。く。時。種。の。足。を。さ。障。子。を。引。開。て。主。後。俱。に。隠。れ。て。登。時。妙。算。の。豆。腐。一。挺。買。と。て。銭。を。遞。与。し。て。裡。面。入。る。程。も。あ。ら。う。と。云。ふ。外。面。の。外。屋。あ。ら。う。と。云。ふ。何。か。さ。る。酒。の。油。の。御。用。の。ま。ま。と。云。ふ。妙。算。又。の。棒。を。ひ。き。し。不。樂。の。用。を。さ。ら。う。と。云。ふ。等。れ。と。留。置。て。棚。の。卸。を。醉。筭。を。左。右。の。命。り。走。り。出。て。喃。付。屋。生。平。の。一。合。三。合。の。外。の。要。る。竹。葉。を。客。人。あ。ら。う。と。云。ふ。一。外。買。ん。と。云。ふ。美。酒。の。這。際。前。の。一。限。の。篩。が。阿。足。の。目。を。さ。ら。う。と。云。ふ。と。云。ふ。遞。与。し。て。外。屋。の。販。子。に。受。け。と。り。微。

笑々。か共菴する。這醉筭。一外近く入る。一。擧げ。も。せ。め。の。ま。や。と。い。ふ。妙算。もう。ち。笑  
ひて。然。入。擧。の。兩。箇。の。一。鼠。が。棚。より。ち。落。と。七。物。の。役。あり。立。ま。る。と。思。擇。と。ま。る。と。  
よ。快。節。と。急。せ。販。子。の。呵。々。と。ち。笑。ひ。て。兩。箇。の。桶。の。蓋。と。此。彼。と。換。取。  
調。合。し。件。の。筭。九。合。の。量。入。と。得。油。の。甚。麻。と。尋。せ。と。本。油。と。ま。の。の。  
朝。買。や。る。と。の。外。の。翌。又。來。ま。せ。その。折。け。の。價。と。取。せ。ん。と。い。ふ。販。子。の。領。え。く。  
そ。何。時。も。賜。り。と。ん。又。御。用。と。願。の。と。忘。て。馳。く。兩。箇。の。桶。の。荷。索。操。り。切。  
擧。で。擧。起。し。声。高。中。の。外。屋。々。々。と。呼。び。さ。う。走。り。て。又。さ。ま。の。の。け。り。然。程。妙。算。の。  
醉。筭。と。携。り。て。外。面。の。柴。門。と。引。開。く。足。を。不。故。所。か。の。束。と。却。主。従。の。對。ひ。て。い。ま。う。  
又。の。ど。く。身。ひ。と。る。れ。の。扨。掃。を。さ。け。の。程。あり。態。の。疎。る。ん。且。九。の。へ。く。の。の。を。  
時。種。推。林。め。て。そ。と。ち。措。け。る。俺。今。由。て。火。を。焼。ん。と。の。指。揮。と。頼。む。と。い。ふ。  
妙。算。の。笑。ひ。て。噫。物。体。の。の。ふ。と。實。實。火。を。焼。き。蓋。を。と。と。精。悍。く。

立。と。自。方。も。禁。難。く。俱。子。勞。い。の。ひ。け。り。倦。而。又。主。従。の。等。と。九。半。响。か。る。日。日。  
傾。け。門。の。槐。は。寒。蟬。の。頻。鳴。く。心。を。向。上。ま。し。残。る。星。を。忘。水。溜。る。曾。見。日。絶。て。時。  
端。居。の。縁。頬。の。檐。小。窓。の。蟠。の。巢。子。横。る。彪。脚。踏。小。風。戦。の。黃。氏。皆。近。く。多。り。比。妙。  
算。の。料。理。小。只。一。種。の。豆腐。の。羹。酒。盪。ゆ。醉。筭。小。本。と。り。添。て。と。大。に。る。ゆ。塗。  
折。敷。を。成。ら。ち。載。て。の。と。出。且。美。美。の。枕。と。ま。系。木。の。折。敷。を。取。り。て。王。従。の。差。あ。て。の。ふ。う。  
寔。小。室。下。の。田。舎。小。竹。の。管。待。ま。う。と。ま。東。西。も。る。况。や。早。の。言。又。又。の。言。果。を。結。  
ひ。て。掘。る。可。の。阿。壁。の。ま。い。れ。れ。も。旅。の。あ。れ。竹。の。葉。も。盛。る。と。う。詠。れ。歌。の。あ。ら。は。る。  
時。を。あ。り。え。か。飯。も。程。ま。く。ま。あ。り。且。又。箸。を。取。あ。げ。ぬ。や。あ。り。口。の。懶。と。い。ふ。  
竹。葉。も。過。し。ぬ。長。途。の。疲。勞。の。瘡。り。今。宵。ま。ま。睡。ら。せ。ぬ。と。い。ふ。竹。葉。の。  
る。は。待。態。不。主。従。の。飲。む。と。迷。く。共。侶。の。美。美。の。蓋。を。取。り。て。田。舎。得。油。の。光。を。る。  
香。も。る。白。箸。を。深。る。と。不。誠。に。餌。料。理。の。折。小。本。と。り。擇。ま。ぬ。入。ら。る。

射の一杓水も信ありけり。多しう。登時又妙算の盃とて勸め。貞方の主推展。
 且あつたよりけり。と。辞ひぬ。果一むれ。妙算あつて取あげて。あ多憚り。
 然るに阿釀と試て。ん九さ。身と退く。多。將小酌。半盃許。一吸。飲盡。
 志。懐紙さ。と。出。兩三回。盃の縁。拭。膝。を。找。り。て。茶。く。ま。り。
 受。こ。つ。酌。と。馳。傾。け。て。又。妙。算。返。一。ぬ。も。そ。の。家。臣。と。會。釋。
 口。誼。不。盡。巡。れ。も。貞。方。主。の。沙。量。る。二。度。不。と。辞。ひ。ぬ。妙。算。
 必。の。隨。不。醉。たり。又。時。種。も。浮。け。る。時。種。素。より。酒。を。嗜。め。
 大。に。多。醉。筍。の。酒。送。り。く。喝。け。り。その。間。妙。算。小。献。ま。
 量。る。い。と。半。盃。多。う。吹。き。り。既。不。と。日。暮。一。妙。算。
 燒。て。る。四。百。八。表。の。物。を。小。主。從。を。慰。め。る。語。次。小。向。け。
 此。訪。像。簞。と。て。殿。達。と。索。さ。せ。ぬ。と。す。小。總。一。個。

危。は。不。信。と。い。ふ。貞。方。ち。少。く。信。あ。り。る。理。り。
 右。小。從。へ。り。と。の。妙。算。の。敵。を。撞。見。せ。九。牛。の。一。毛。
 者。の。言。い。れ。ば。盤。纏。續。糸。外。見。不。立。進。退。不。便。
 主。從。入。り。の。掩。と。敵。と。避。の。術。あり。又。時。種。が。武。勇。
 枝。と。信。が。如。く。堅。と。破。り。銳。と。推。不。石。の。卵。と。壓。
 力。あり。辟。言。建。保。の。義。秀。親。衛。又。近。世。の。妙。算。
 出。り。あ。ま。り。て。幾。番。も。身。勢。の。討。兵。と。我。脱。て。恙。
 死。て。説。論。の。妙。算。ハ。有。理。と。と。父。口。を。も。る。疑。
 種。ハ。多。精。と。酒。氣。小。兼。ら。進。ま。少。く。菴。主。目。今。
 人の。癖。も。亦。聽。べ。う。も。あ。ら。う。妙。算。ハ。含。笑。

神ありて一人の力にて動さうもえりし時種ハ物もせは是究竟と縁煩  
 起一肩小ち乗せ又取る所目より高擗揚て又彼此と態を更弄して庭の樹間  
 暗と敷の那方這方とて違りて昔所へ御措きて自若くと面色を変換徐々  
 埃ら拂ひ両袖斂め衣領揃合へ故席を着る妙算の直と呆れ眼を睜り  
 吐又へくもあがりし必く久と貌を更ぬ却時種小ち對して鬼神もあは身力  
 量世も又傳あるがうも定小一人當千多勇士を合せ也詰と必くあつた過言を  
 受く這為体を介殿兼座小報身も六ひくも是く憑く必く必くといへ時種領を  
 そその該のいふも去年六載義満世と逝く將軍義持執疑深く骨肉を

容され郡国の大小名鬼胎と抱に鮮體と上落せぬの言とて世同ぬらひ乱るべ  
 侍の時節千葉殿の権君と合體と義共と起ひる虎の翅と添さく向小  
 前も百戦百勝且房總と平均と武藏と略と鎌倉も攻入るも易ふべと勇  
 むを負方推林示め噫声高何とのの聲も耳ののりとの世の常言も慎傳  
 後悔のいふ要るま辯の痛痛と叱りて時種頭を擡り返巡とて依口を  
 鉗め酒の酔いませく升で頻ら小睡眠と催ら況負方主の油量もこれ漸  
 漸小酌酊と七席も勝ぶええ妙算の合大なる且盃盤とはさし立て次の  
 間臥簟と儲蚊帳と垂る主従と搖覚殿連夜食とられ臥簟の那首の儲て  
 あり就寝の飲のりもと屢回て負方主の頭を擡げ左見右と不々夜食の欲  
 痛く酔う枕小就ん允と刀と引攪り倭燈をさく次の間も蚊帳の内へ入  
 多々時種も引續て宿寝の旅の造作も主の後方臥たりけは當下妙算を

燭の下折アミ一團にや殿も燭主の淨手小のせぬぬ夜深て起ゆたふて  
燭の下の折アミ一團にや殿も燭主の淨手小のせぬぬ夜深て起ゆたふて  
燭の下の折アミ一團にや殿も燭主の淨手小のせぬぬ夜深て起ゆたふて  
燭の下の折アミ一團にや殿も燭主の淨手小のせぬぬ夜深て起ゆたふて  
燭の下の折アミ一團にや殿も燭主の淨手小のせぬぬ夜深て起ゆたふて  
燭の下の折アミ一團にや殿も燭主の淨手小のせぬぬ夜深て起ゆたふて  
燭の下の折アミ一團にや殿も燭主の淨手小のせぬぬ夜深て起ゆたふて  
燭の下の折アミ一團にや殿も燭主の淨手小のせぬぬ夜深て起ゆたふて  
燭の下の折アミ一團にや殿も燭主の淨手小のせぬぬ夜深て起ゆたふて  
燭の下の折アミ一團にや殿も燭主の淨手小のせぬぬ夜深て起ゆたふて

第六回 福草村の三兇奇功を奏す  
薬酒を醸しと郡領来歴を詳説

却説その夜の二刻比連立末ゆる面個の杜伎此彼打拵時刻に赤銅造の両刀を  
十字の像く腰に細鏢の戦装束手膺肩鉞打拵抹額を戦鞋改穿締々  
先を進む一人が火繩を揮ひ薄月夜多柴門の近着て三つ角の信方より小石を  
拾ひ破と擲礫の音の暗騒るらん裡面木魚の音絶て仏間を出る妙算を紙

燭を兼々両折戸を密と推開透透とてを離裁袂船藏欲と向へ面道の杜伎を  
然と答て足をも亦一躬て找も母味美行れ飲今宵の首尾甚慮を  
と問うまされて笑はばまされがまやね殿より仰つけられ豫の計較一箇も外なき終りの  
那陀々花酒を以の随不喫な貞方も時種も酔て臥房入りより二時あまの  
経不れば今死人の異多と宿鳥と捉るより易く候一緯の始末と説示さる快々  
今を先立親引る胞兄弟の草鞋を脱捨て正屋へ入て坐下り離  
藏を密と喃母の御衆の咱們も一役兼て外屋の販子不妻着那陀々花酒と  
毒を酒と篩分りし通麻鬼の又賣態も妙多と誇れ輪  
藏を調子小声と低めて那酒あり豆腐の敵薬咬合まれ殊き  
と云えら咱們的豆腐費入る一役勤ゆるそ那奴們的咬ひ飲と回の妙算  
領を脱脱あるを二荒枕の装着て露も送ま咬と居その進退の妙

わねと容易くぬれ酒への目殿より賜りて。那酔甯甯の機園の樋とて八を  
 西箇の隔。外面の漆とて塗す。これと目標と黒の方。院々花酒のり。黄の方  
 むの毒の酒のり。茶酒と薦ん。はるは黒の方と下。上と上る。空敷と指と塞げ。毒  
 る酒の此も出。毒の酒の盛。黄の方と下。上と上る。空敷と指と塞げ。茶  
 酒の些も出。殿より授けられ。俺身の喫。人仕と盛。とて通魔の  
 治る。酌と人。とて。その度。毎。酌。喫。骨の折。所。為。況  
 既。乱。酒。の。尚。錯。毒。の。酒。の。盛。俺。身。の。喫。む。は。飲。と。以。の。要。時。由  
 ぬ。の。苦。勞。今。又。話。ま。如。の。輕。所。ゆ。り。然。と。氣。色。不。曉。ゆ。れ。の。絆  
 破。れ。の。の。の。俺。身。の。矢。庭。の。殺。さ。命。の。大。役。左。中。右。中。勤。果。せ。親。の  
 心。子。の。知。を。僅。の。豆。腐。賈。人。と。酒。肆。の。販。子。の。打。扮。今。何。の。誇。と。と。と。君。は。れ。と  
 物。も。多。ぬ。胞。兄。弟。俱。膝。立。直。と。と。の。該。も。あ。た。た。死。の。亦。い。ふ。と。那。奴。們。各。

這庵へ輒く引入れぬ。と。回へ妙算。ゆれ。と。那叛逆の風声の世も隠れ。自ら負  
 方も亦傳。必。這地へ来る。と。然。る。と。便。點。と。留。り。縛。り。ぬ。と。殿。より。仰  
 下。され。那。主。従。の。骨。相。書。と。訪。像。さ。賜。ひ。と。日。毎。の。門。は。立。て。這。頭。と。過。は  
 旅客。の。回。多。く。と。け。たり。と。け。け。亭。午。の。比。柴。門。の。頭。と。過。る。旅。客。の。主。従。と。と  
 一。個。の。縮。羅。の。單。衣。を。被。て。深。編。笠。の。面。と。曾。と。白。柄。の。較。鞋。の。兩。刀。を。帶  
 たり。回。り。も。ある。と。武。士。又。一。個。の。従。者。也。年。紀。の。三。十。あ。り。の。身。の。長。高。く。骨  
 遅。く。長。刀。を。腰。に。と。裳。を。引。折。り。脚。絆。を。牙。で。切。果。と。馳。ひ。と。上。り。と。面  
 及び。と。那。後。者。の。面。魂。を。餘。の。模。様。も。訪。像。の。合。と。見。れ。新。田。良。の。物  
 たり。骨。の。忽。地。うち。駭。だ。て。の。折。折。の。外。面。の。素。衣。を。着。て。折。折。の。外。面。の。素。衣。を。着。て  
 大。く。爪。戦。み。已。ま。り。け。れ。那。主。従。の。面。魂。を。停。在。と。を。鏡。程。に。赤。蓮。の。又  
 肩。て。逃。さ。と。透。さ。黒。鷄。の。趕。々。俺。身。の。不。来。け。の。登。時。裡。面。も。箇。様。と。

伝説集 一車老三

伝説集 一車老三





大正十一年一月一日

依り信身一車老三

獨語々密引て試みる。那主従の外、面を油塗て、ち故舊を先送ふ。要時、其は、俺這  
 蒼蒼と南朝、由縁ありの、る、の、隱宅、多欲、と、い、けん、那、後、者、の、呼、門、と、秋、早、者、の、堪、ぬ、を  
 言種、の、要、時、の、宿、り、を、請、ひ、し、り、を、名、圈、套、の、入、り、に、當、下、俺、又、後、々、の、為、と、い、ひ、し、り、  
 ぬ、れ、れ、戦、の、勝、つ、る、黒、鷄、と、い、ふ、多、く、竊、の、絞、殺、と、樹、林、の、間、の、棄、措、の、然、り、と、い、ふ、あ、り、て、出  
 迎、て、正、屋、の、倡、引、茶、を、薦、め、り、と、丁、寧、の、款、待、を、程、の、件、の、武、志、錢、卜、の、問、を、身、に  
 宿、望、の、成、果、を、知、る、ま、ほ、し、と、い、ひ、ぬ、く、便、り、を、爲、て、箇、様、々、の、以、誘、へ、馳、て、佛、間、の、相  
 伴、て、錢、の、七、占、を、う、ぬ、と、占、象、の、大、吉、と、報、知、と、飲、せ、觀、世、音、の、這、歡、を、ま、る、ま、る、と、え、を  
 稍、久、く、普、門、品、を、讀、み、佛、間、で、時、を、得、せ、り、拵、置、れ、義、貞、以、下、の、位、牌、と、い、ふ、も、見  
 せ、爲、之、那、們、の、果、と、位、牌、を、目、を、照、し、々、愀、然、と、い、ふ、至、て、向、り、も、多、く、件、の、武、志、新  
 田、貞、方、又、從、者、の、畑、六、郎、二、時、種、の、事、を、あ、け、ぬ、と、猜、ま、る、猜、し、て、も、名、告、を、せ、り、人  
 だ、へ、あ、り、と、い、ひ、決、め、が、あ、り、豫、の、計、謀、の、今、の、時、を、い、ひ、け、れ、が、正、は、俺、身、の、素

生と説示し新田の舊縁ありと殿の隱謀色々と誠の事耳を告げては新田の嫡  
 孫と總大将の事と立て共の義兵と起る軍の名ありと平井城内で軍議ありと  
 笑うと吉く相譚謀せしめ貞方の疑念を早め各告せしむ。那時種が焦  
 燥て主ももて焦々と名告て意中を諦め、然れ猶も主従の心を緩させん為、  
 け、占、ひ、錢、卜、の、大、吉、と、い、ふ、も、豫、の、口、傳、の、辯、を、加、て、最、も、愛、ま、り、説、示、せ、り、と、貞  
 方、主、従、と、い、ふ、心、切、さ、る、あ、り、ぬ、も、南、北、兩、朝、の、譬、言、た、る、赤、黒、一、隻、の、鷄、の、凡、戦、の  
 赤、鷄、の、肩、を、う、し、心、の、掛、て、云、云、と、い、れ、折、れ、を、慰、め、御、小、紋、を、黒、鷄、と、自、滅、を、  
 正、の、い、ひ、と、購、め、て、是、も、也、を、祥、多、と、い、壽、を、た、れ、ら、解、て、迷、お、止、宿、の、心、を、倦、る、折  
 り、餘、健、の、酒、と、豆腐、を、賣、り、と、ま、れ、の、却、貞、方、を、留、め、り、と、隱、語、を、知、り、せ、り、介  
 る、小、腹、の、洗、れ、の、畑、時、種、が、旅、力、を、万、夫、無、當、の、勇、あり、と、豫、も、信、せ、り、と、い、ふ、あ、り、  
 と、い、ふ、よ、の、言、を、説、き、そ、の、せ、り、那、奴、醉、る、折、れ、が、口、車、の、舞、を、せ、り、と、い、ふ、機

謀せ下立也。句。那緑頰の頭を脱履石で引起し肩から載し搦揚ぐ座の  
 村間を幾遍放りと遠く又改の所へも措きたり折錢百人力もやう最怖る。心  
 狂者多れども智慧はけり購索易く那陀の花酒を送りて飲ませられたるに  
 共侶の酔臥を皆是殿の方寸より出る計畧の圖を當りて大功なる成就を  
 只這一舉の亡者の悪名を雪むべし絶る家と與さんとなす程の程の程の程の  
 愛さるる二五十一の長物より小齊一勇の難藏船藏笑片向うち領領是の就も  
 感入る小殿の御計畧方主從這地へ來て必その惣ふ所を儲ぐ細以  
 張れを彼此下知あり折近曾おのの錢下の流行より忠告の密訴を聞食  
 入られ又俺們の目より出賈ふ打扮して彼此より巡りて天の餘も客店酒肆  
 茶店の密計を洩す骨相訪單と通すませぬ。準備の自他食異るる  
 小堂より母の宿所那王從の立寄りへ入力を天の錫信より立身疑ひ多し。

寔は賀走下賀走下と辭はく答ふる兄も弟も如意満足の飲限の多うと妙算は  
 とも俱小笑の領して那陀の花酒を飲るれは銀幻術ありとも勇力備わると心神  
 共亡失し鮮薬を用ひて行程は幾日を経ても醒るとなく竟あつて死に至ると正ふ  
 傳せられも寐さく措て捕栄多う快細めて訴せるといふ船藏のあつたと女才  
 なる飲御高死が隠語と那方主從の夏徳を知らぬゆゑの折咱們の飛が  
 似く城内へ走まるとも訴果せん殿の飲飲天々を小介が孤王平と得ぐ  
 汝が母の宿所へ赴て実檢して違ふに那王從と牢轄の衆と鎌倉へまかせんは  
 とも走り還りて親同胞と共侶守護して孤と福草村の母の宿所を等めし仰出  
 されるふより。躬と踵を旋して走りぬる件のも。大哥の報て夜を入らうられ立てまつるを  
 へは又難藏の目今母のふれど。最も緊く細めて殿の恩臨を俟るる生拘るる思  
 るてこの華ちるるれも。女も似て快醒て女を隠し候はるとも反駁せしむる本

直不き身踏雲に仕度且一覽と後不楚と隊與と定む。船藏立の急せ。心と  
 答之行燈も紙燭も兼て火と程。胞兄弟俱小立あり。紙門を半介推開。酔臥さ  
 主従と瞬も望得とて紙門を圖て退る。難藏雲時沈吟と那陀々花酒の奇  
 特。目前主も家隸も仰反て死するの異ある。然とて虚と下され殿の恩臨小  
 程多ん。船藏途を出迎て母の甘行れる。始末具の事あびて。死伴とけり来よ。  
 殿のこころをいふ。多人數か。心つよ。折かえ。俺們兄弟先小進。那王従ふ  
 索と拭ふ。尚醒る。踏雲氣。の談い。耳示。船藏連の領。てその  
 用心尤。申夜。曇り。夫容。月鮮明。蕉火。の便あり。今。咱們を  
 走。一走。鄰村。きて。て。末。臥房。心。つ。草鞋。と。穿。着。東。と。投。て。走  
 け。然。而。妙。算。難。藏。も。柴。折。燒。て。茶。釜。沸。物。片。も。竹。筒。取。て。賓。客。餉。の。鹿。茸  
 掃除。果。て。候。程。庭。の。草。葉。集。く。虫。の。露。路。口。声。肌。膚。寒。く。と。曉。方。急。急

隨不猛可。少。人馬の足音。安。械。會。許。の。士。卒。前。立。後。備。馬。の。足。機。  
 威の身甲。小。古。金。禰。の。戦。袍。輪。鐵。入。り。梨。子。打。鳥。帽。子。小。黃。金。製。作。の。大。刀。を。踏。て。南  
 部。栗。毛。の。三。歳。駒。の。雲。珠。鞍。措。け。優。れ。ち。乘。り。鞆。柄。も。意。氣。揚。々。と。柴。門。近。く。走  
 程。小。案。内。立。る。船。藏。へ。一。反。む。那。方。先。走。り。之。邊。折。戸。を。破。と。推。開。母。水。よ  
 大。哥。も。快。出。殿。の。渡。を。の。と。呼。ぶ。声。小。妙。算。の。難。藏。と。共。侶。の。慌。忙。は。連。折  
 戸。の。左。右。不。平。伏。ら。登。時。兼。胤。の。究。竟。の。士。卒。四。五。十。名。小。妙。算。の。四。方。を。捕。圍。馬。を  
 放。ち。悠。々。と。正。屋。到。り。上。座。を。登。祭。尻。を。ち。撰。む。物。具。多。る。老。當。家。近。臣。等  
 坐。列。を。傍。り。程。小。妙。算。の。迹。小。跟。蹤。裡。面。入。り。兩。個。の。兎。子。共。侶。小。妙。算。を。拜  
 胤。遙。か。れ。を。て。當。庵。の。女。僧。妙。算。等。近。う。来。れ。と。招。を。せ。て。あ。ら。う。原。衣。着。を  
 南方。の。殘。將。新。田。貞。方。ハ。晝。暮。不。陸。上。奥。と。没。落。せ。よ。追。捕。多。く。と。他。の。人。等

あざりて水とをれば水も隠れ火も遇へ火も隠れ勢の討も殺脱て出没定まらぬ  
是れを捕らむものなり又只自方の事を相従ふ一個の猛者あり畑六郎  
是れ亦その勇力世に捷れて且剽姚の長たれば是れ久しく入る然るも  
是れ只是國家の患なり室町鎌倉兩御所の大内心安らば只自方を捕  
捕てまわさるのあふ勸賞乞ふ依るべしと云嚴るらん下知あり兼胤若も  
鎌倉殿の御恩よとて父祖の舊領と相續する且宿願もあると日夜肺肝を  
摧つて稍計畧を得たり久執權憲定入道より告免許を稟て兼胤若の企  
あざりて都鄙遠近不流言せし那貞方と孤城下は輒く誰引もせん為る  
尋常る隊配もと捕籠てを生物んと做する數百の逞兵ありとも他又例の幻  
術をも脱去るも多し其の故小左左の右さるる思慮を面をす家臣は  
修る院々花酒の一方あり此は是唐山宋の商舶をける宋兵兵と喚れり小松は大臣

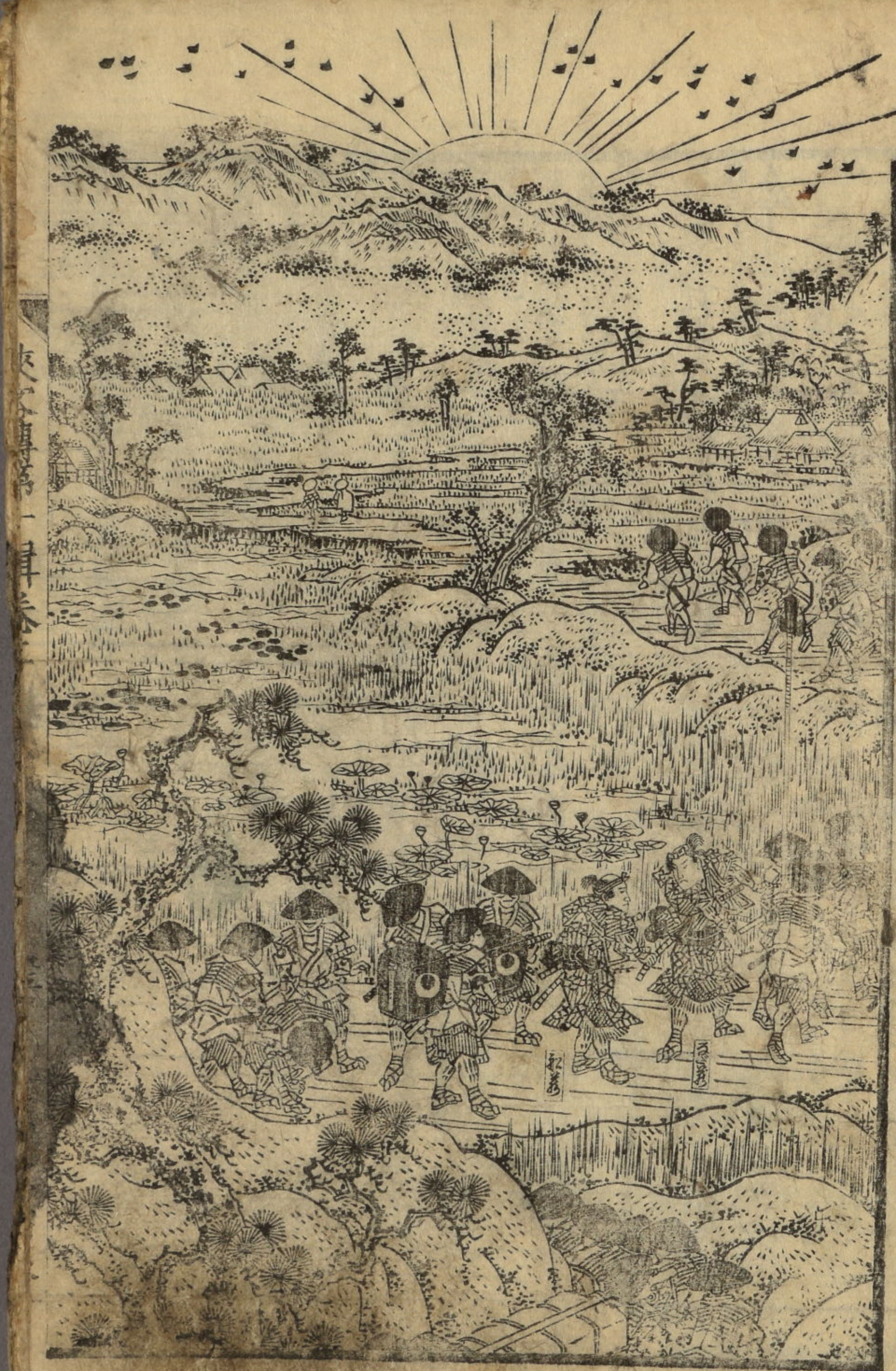
重盛公不献り奇方への勿論裡毒蛇神通不思議のれと云も件の藥  
酒を啖て後酔て睡不就くと死心神遂に失て日更の月を麻呂を解薬を用ひ  
少と死に醒むて死まざる譬や那劉玄石が中山半日の酒も捷りたり然れば又宋の時  
歹人の旅客もど飲め之瞑眩を忘る間小殺と東西を夏よりと無縁汗薬を  
毒の循るに速そ飲むの卒に倒れも幾小時を殺まると醒來ると恙々懐  
院々花酒のそれ似たるも睡らるる毒循る下は毒の循り後醒るると右の  
如し是れ捷れる所軍陣不要の定ぬるも家臣はよくわたり近衛院に死  
時小妖婦玉潔なるも先祖父葉介平朝臣常胤主と浦介義明上總  
廣常号不勅命して下野州奈須野を獵を射獵せしと重盛空頼も  
側不招近づく和殿奈須野不到折九尾の狐が人小変と障身と做すとあり  
その機を猜る便點とありて這院々花酒を飲め殺せり這藥酒は徳

とく傳來效驗鮮藥の方ま其傳授の由より今に至るその奇方と家の秘書  
 とく相傳せり。あつとある比禁獄の者一人。小件の酒を飲りて果否を試む。其  
 小弥増て經驗亦神妙へ。然れ亦那真方。小這藥酒を飲ま。隱形五道の術あり  
 と。その施さ小由多く。搦捕れんと疑ひ。然れ旅客の立よ。客店酒茶の坊費  
 們のゆへ。神社佛閣に至るまで。計策を御下し。訪像を引合へ。尙真方名とをさるる  
 便點を以這藥酒と薦めて。睡れ就と。許さうせと下知。小件の陀々花酒一斗。小  
 機関ある醉筭と鮮藥一貼と相添へ。そのれ共小遞与置。鮮藥の要る東西  
 似れ。尙術で自方のれ。俱飲とあり。せと。速小救ん為。小當庵の女僧妙  
 算母子の原是刑餘のれ。近屬との錢下。同のの目。毎小ヨラ。れ。小の子。灘藏船  
 藏と共侶。孤が密計。小與りて功。と。先人の罪と贖んと願ふ。と。藥酒。醉筭。鮮藥  
 是預け。緯と。り。小孤が計。する。所。違。は。新田真方主。從。那。風。声。を。笑。語。と。く。

果と當所小來る折妙算逸速く。又と。言。と。設。て。菴。引。入。れ。遂。件。の。主。從。小。飽  
 ま。陀。々。花。酒。と。薦。め。醉。臥。め。輒。虜。小。せ。り。船。藏。と。り。少。え。あ。は。る。兩。度。の。口  
 状。小。より。詳。小。知。り。ぬ。その功。莫。大。る。と。り。灘。藏。船。藏。が。親。け。荒。海。鱈。九。郎。有  
 其。身。後。の。罪。名。を。削。去。り。兩。個。の。見。子。を。召。出。し。本。領。を。返。し。與。へ。勿。論。真。方。時。種  
 等。その身。の。意。中。と。り。諦。む。み。づ。ら。名。告。り。り。れ。失。錯。あ。る。と。ね。ね。と。孤。且。目  
 今。実。檢。せん。細。り。置。り。の。小。と。り。と。回。ハ。妙。算。頭。を。擡。て。真。加。小。餘。る。御。恩。澤。と。さ。さ。小  
 面。と。起。ま。親。子。之。人。分。飲。び。皆。殿。さ。の。御。武。德。を。然。り。も。搦。獲。わ。り。と。さ。え。那。真。方  
 等。主。從。の。老。尼。が。口。車。を。兼。と。虜。小。さ。へ。り。骨。の。折。れ。る。の。や。既。小。醉。臥  
 甘。も。死。方。の。小。異。あ。る。細。り。の。易。り。然。り。か。下。知。と。ま。え。と。り。と。索。を。破。り  
 甚。そ。終。成。と。り。ゆ。ら。あ。た。と。の。小。并。胤。領。を。小。小。緊。く。細。り。快。々。せ。と。と。意。した。る  
 下。知。小。灘。藏。船。藏。多。勢。を。憑。心。准。備。の。捕。索。近。習。の。壯。武。者。共。侶。小。躬。を。臥。房。小

綱へ。黑白の知らぬ自方主と炬時種と引起。素と被けとも俱落々々と縛縛采る。倒れけり。既小と兼胤の臥房の内小枝入り近習の燭を揚させ。再件の主を引起させてぬとえて寤れれも人骨柄現自方小相違る。藥酒の效驗神妙を那幻術の勇力も怖る小足らぬも心と緩さ行心あらん吊のせませ。綱轎子這臥房まで早入させ。主後俱うち無せて日を経るとも醒ると。あつと只一日も留置入の要る。狐の這首より啓行とて生拘を鎌倉へ牽りてゆえゆえあはてん。灘藏と船藏の元と今番の伴小立せん。就中妙算が才覚の感するあり。鎌倉へ赴き。絆の始末とゆえあはてん。御沙汰あるる。傳達しての送漏もあは。執權同せあはて汝が演説の營中の首尾宜し。任れば汝の推續は。多那地へまゐるか。より雑兵一両名を送と路の案内小せん。あはの義もあらゆ。と丁寧小示さ。賞感大なるさうければ妙算灘藏船藏の天の升る。

心地と異口同音小言受あ。秋以限のさうけり。然程小雑兵門へ準備の爲小吊のて来り。二挺の綱轎子と早入ると兼胤下知とて依小自方主と時種を這轎子うち無せて緊鎖と握出を。許すの士卒小成ら。鑣奴がと牽居は馬小閃りとうち無れ。荒海灘藏船藏の近習の中小立雜り馬の左右小諫添ふ。隊伍茶系と齊々と徐行く方の山峽小横雲の朝出立彼誰時の風戦庭の小草を折布と雲時目送る妙算のの月小起行小心のそくさうけり。原小這妙算が良人多ける。荒海鰐九郎有甚小亦是千葉某の家臣小て千葉某の眼代。邪智貪林女の黒吏を。年来私慾をける。民の爲小嗾訴せられて罪戻脱る小辞る。久く禁獄せられ獄舎の中を身まうけり。あはの故小その妻と西側。荒海灘藏船藏の城下と追放せられ。他郷へ去ると允され。放免のどく。封内小置れり。あは戦国の以習を。虚実の外へ洩さ。是より以来母子。



天竺山一帯



われ居野のたのまき  
護送生島舟船  
赴鎌倉  
名所の名電のちへのり

舟船一帯

舟船一帯



二名身の便着るる。灘藏と船藏の人の為馬を追ひ又川舟を漕ぎどこれと  
 それを備ふ者稀れれば果に博徒の寓居と僅ら口を鯛ひけり又その母親の女僧の  
 るの妙算と法名と福草村の編小る其算を締ひ托鉢して餓死充んとせしめ  
 鰐九郎が非義ヨリりいさく妻の助言よれり。恁れに新尼妙算の鰐九郎より  
 心さるのいとはそろしめらればと。里人們皆憎ての合さざるの内施まふれ  
 冥らねば妙算の困窮といとせん術るけり。念ふに這妙算の原是似非  
 巫の女児の婦女子の早る小文才あり。あまの幼稚の時より親の生活おるけり。  
 陰陽説相卜筮の趣を見熟聞熟らける。記憶も人の捷れけり。今に至る  
 られを忘れず人窮れれば邪念起る。凡浮世の習俗を妙算の苦に随ふ年来  
 念下なるは觀世音より夢想の示現を蒙りたりと詭倡て以て記せ。錢下を生活お  
 せむ欲て初の程の街衢に立辯の任一人の歩を駐りてその吉凶を占ひ。信長は

の。信長はあり。信長のの魅されて當らばは先笑ひ里人も新走りの  
 奇と好む見識を立ると世評高き隨ふ妙算の又街衢に立む。日毎お  
 菴に在る。その占の行る。灘藏船藏の母の庇で身の皮をのぞき  
 る。悠り程の當國の郡領千葉介并胤の年来鎌倉出仕の侍所別當補せ  
 られんと望めども左右に障りありていも宿望を遂ぎず。貞方主を追捕のめ。京  
 鎌倉より下知せられて搦捕する。勸賞の依る。とと嚴ふ。貞方の志  
 貞方主従を誑引きて虜せし。功を倦宿望の成就。言尋思と却録  
 倉密訴と計策を献り。并胤叛逆籠城の趣を詭倡。近國の一流。家傳の  
 家傳の藥酒を醸して客店その餘も坊賈の計策を指示。件の藥酒を  
 預措く折妙算もよと洩す。忠節の密訴ありと倡て千世の城内の推参  
 賤尼の丈夫の罪よとて城下を連れぬ。殿のあも。身の外を

平惣

志推て思告る。えの所以箇様々々。己が錢下のゆる。為体演述。悠れが客店。酒肆  
 のも。提りて賤尼が。其の如く。衆人聚合。所。い。名。這。回。の。密。策。預。を。あ。ら。わ。し。地。難  
 藏。船。藏。名。と。共。侶。日。毎。の。群。集。心。こ。ら。け。て。貞。方。這。地。の。来。さ。ん。の。術。計。と。旋。り。

酒。と。薦。め。虜。ふ。と。ま。わ。ら。ま。下。倘。功。成。ら。見。子。も。召。還。さ。せ。ぬ。と。只。願。願。ひ。

と。ゆ。え。わ。げ。思。慮。口。才。女。流。さ。る。も。支。を。成。さ。死。回。魂。を。を。れ。兼。胤。則。を。を。

方。主。従。の。訪。像。と。藥。酒。を。餘。の。東。西。ま。の。形。の。ど。く。取。を。不。妙。算。の。又。外。小。新。田。義  
 貞。下。の。位。牌。を。造。り。と。仙。回。置。を。請。ひ。り。そ。の。議。の。亦。り。あ。れ。兼。胤。又。件。位。牌。の。古。色。を  
 着。て。造。ら。し。の。内。糶。の。妙。算。取。ら。せ。け。り。悠。而。兼。胤。と。妙。算。が。秘。計。不。幸。の。ゆ。え。然。り。由  
 名。將。勇。臣。の。運。の。窮。と。い。さ。る。果。敢。て。虜。せ。され。の。薄。情。の。け。り。の。あ。ら。ん。旨。貞。方  
 主。従。の。録。倉。牽。り。て。去。れ。て。後。の。話。説。甚。麻。を。名。そ。る。次。の。卷。小。解。分。は。を。聽。ひ。か。し。

用。卷。驚。奇。俠。客。傳。第。一。集。卷。之。三。終

治平惣

山新

大南

此所多當多

